# IMAGINUS News Letter 2022

ー子どもたちが笑顔で過ごせる世界を目指してー

イマジナスの活動報告

特定非営利活動法人IMAGINUS（イマジナス）

IMAGINUS

## ～団体理念～

少しだけ想像してみる。
近くにいる人、遠い国の人、私たちの未来。
何ができるだろう、共に生きるためには。
未来を創っていくために、『想像』を『創造』に変える、学びの場ーイマジナスー。

イマジナスは、世界中で暮らす異なる文化や言葉、慣習や価値観を持つ人々を同じ地球市民と考え、多様化する現代社会で、共に生きてゆける道を模索しています。
そのために、国を問わず若い世代が、異なる環境に生きる人を“想像”し、新たな共生の道を“創造”する『学びの場』を提供しています。

## ☞ イマジナスの活動を支援する

ご寄付、特定寄付（災害支援など）は随時受け付けております。また、会員になって団体の活動を支えていただくお願いもしております。

○正会員
IMAGINUSの活動理念に賛同し、活動を共に推進する方。また総会での議決権があります。
会費　10,000円/年度

○賛助会員
IMAGINUSの活動理念に賛同し、サポートしてくださる方。
一般会員　5,000円/年度
学生会員　3,000円/年度
団体会員 50,000円/年度（営利団体）
　　10,000円/年度（非営利団体）

※入会申し込みは、当団体Webサイトよりお願いいたします。

＜ご寄付・会費等のお振込先＞
ゆうちょ銀行
（口座名義）
特定非営利活動法人IMAGINUS
（記号）15120（番号）
2579401

他行からお振込の場合
ゆうちょ銀行
518支店、普通0257940

### 団体情報

特定非営利活動法人IMAGINUS（イマジナス）
住　所 ： 広島県東広島市志和町志和東1152
メール ： imaginus2013@gmail.com
Webサイト：https://imaginus.jp

イマジナス　検索

### 協賛・提携団体

国際協力機構（JICA）／JICA中国
Darwin English Tutorial international (DETi)
（＊フィリピンネグロス島の英語学校）
ネグロス電工株式会社（東京）
国立大学法人 広島大学
無有建築工房（大阪）
認定子ども園さざなみの森（広島）
国際協力学生団体 Smiles Production（広島）
＊順不同

INDEX


1. ご挨拶
2. インド 草の根技術協力
3. ネグロス奨学金プログラム＆台風災害支援報告
4. インド児童シェルター
5. ネグロス島仕事づくり＆寄宿舎建設
6. 学生インターン（国際協力）


## 1. ご挨拶

平素より皆さまには、イマジナスの活動を支えていただき、深く感謝いたします。
この度、インドでの草の根技術協力事業（児童保護）を中心に、フィリピンネグロス島や広島での活動をニュースレターという形でご報告させていただきます。
2020年のコロナウィルス拡散以降、インドやフィリピンのみならず、世界中が未だ出会ったことのない困難に直面する中で、イマジナスの使命である、世界中の人々が「共に生きる（共生する）には?」という問いへの具体的アクションが今、一層求められています。イマジナスでは2013年の結成より、沢山の方々のご支援をいただきながら、インドでの児童保護、大学生のグローバル人材育成、災害復興支援、そしてフィリピンでの奨学金プログラムと、日本人である私たちと世界の人々との共生の道を模索してきましたが、これらの経験と情熱を胸に、2022年も一層の活動の充実を目指して参ります。

特定非営利活動法人IMAGINUS（イマジナス）

理事長 高橋 大海



## 2 インド 草の根技術協力

インド事業の一つである『子どもの安全を保障するためのセーフティネット確立へ向けたNGOのキャパシティディベロップメント』は、コロナ禍で約1年半の間休止しておりましたが、2021年6月にようやくプロジェクトを再開できました。
現在は、IMAGINUS日本人チーム4名に加えて、現地のパートナー団体2名で運営をしています。インドを実際に訪問することが難しい状況のため、2021年8月末にオンラインで現地のNGOスタッフを対象に、第3回目の研修（現地は対面）を実施しました。オンライン上での難しいコミュニケーションに試行錯誤しながらも、まずはインド人の参加者と1年半ぶりに再会できたこと、また一緒に研修を続けていけることを嬉しく思いました。

一方で、このオンライン研修で沢山の課題が浮き彫りになりました。今までは日本チームがインドに数週間滞在する中で、現地のパートナーと綿密に研修を準備し、参加者とも直接コミュニケーションをとりながら信頼関係を築くことができていました。しかし、この過程の全てがオンラインに変わり、パートナー団体とのミスコミュニケーションが起き、研修中は参加者同士のディスカッションや、各団体の現状の課題を日本チームがリアルタイムで全て把握できず、必要な情報を伝えきることがとても難しくなりました。
このようにコロナ禍での研修事業は、毎日思うようにいかないことの連続です。インドに実際に行かれれば‥と考えてしまうことも多々あります。しかし、この与えられた環境で試行錯誤を繰り返しながら、このプロジェクトの最終的なゴールである「1人でも多くのインドの子ども達を人身取引や児童労働の危険から救う」ために、私たちにできることを、一つずつ丁寧に取り組んでいきます。

新たな取り組みとして、NGO10団体をしっかりフォローアップするために、チームに学生インターン6名（広島大学）を迎えました。第3回の研修終了後、各NGOとオンラインで繋ぎながら、インターンが個別に指導できる体制を整えました。また、2022年2月に実施の第4回オンライン研修では、研修自体を2回に分け、少人数に伝えたい内容がしっかり行き届くように工夫しています。

＊本プロジェクトはJICA草の根技術協力事業として採択されました（3年間）。研修では、主にプロジェクト実施の手法を学ぶPCM（プロジェクトサイクルマネジメント）について実践的に学びます。これは効率的に事業をマネネジメントする方法を体系化したものです。プロジェクトを成功へ導く為の大切な概念として国際機関を含め世界中で広く認知されています。これまで、2019年度に2回（現地）、2021年度に2回のPCM研修を実施。

## 3. ネグロス奨学金プログラム＆台風災害支援報告

「フィリピンの子どもたちが安心して勉強できる環境をつくりたい！」

当事業の舞台は、ネグロス島オリエンタル州にある世帯数50戸ほどのカバヤブサンという山間の村です。電気は一部を除き通っておらず、ランプを使用しています。水道もなく、ほとんどの家庭は、竹で作られた高床式の質素な家屋で生活しています。

フィリピンという国全体で見ると、近年は経済成長を続け、都市部では急速に開発が進んでいます。しかし実際には貧富の差が拡大し、それに伴って貧困による教育格差の問題も深刻になってきています。カバヤブサン村では、多くの家庭がサトウキビ農園の日雇い労働に従事しています。しかしその収入だけでは生活費を賄うことで精一杯になり、十分な学校教育を受けることができない家庭が数多くあります。

日本ではほとんどの家庭が小学校や中学校での義務教育を受けることが当たり前になっている中で、この村ではその教育さえも十分に受けることが出来ていません。

そのような子どもたちに、学費と家庭の経済支援のための資金を提供するために、スポンサーを探していたところ、ネグロス電工（株）様がスポンサーを引き受けてくださり、当事業を開始することになりました。ネグロス電工様は、奨学金事業の他に、ネグロス島の仕事づくり＆産品開発プログラム、寄宿舎建設計画への支援も引き受けていただきました。

今後、子どもたちの教育と、家庭の安定へ向けて、この取り組みを少しずつ広げていきたいと思っております。

## 2年目となるネグロス奨学金プログラム

ネグロス奨学金プログラムも今年で2年目となりました。すべての子どもたちが安心して学ぶことのできる場を提供するべく活動してきましたが、コロナウィルスの影響、さらに昨年12月の大型台風被害と、子どもたちを取り巻く環境は決して楽観視できません。

奨学生は昨年度から8名が継続で奨学金対象になり中学校へ進学、2名が新規で受給しました。これは、コロナ禍の様子についてインタビューをしました。



親御さんへの「奨学金を受給してから、何か変化がありましたか」という質問へは、「勉強するモチベーションがあがり、自分の将来に向けて子どもが努力するようになりました」との回答でした。「コロナ後、生活に何か変化はありましたか」という質問に対しては、「日々の暮らしのためのお金を稼ぐことが、さらに困難になりました」という回答でした。このように、山間部においてもコロナウイルスの影響が及んでいます。親御さんへのインタビューを通して、当活動が子どもたちの教育支援に繋がっていることが確かめられた一方で、新たな課題に挑戦するタイミングとなることも実感しました。今後も、子どもたちが「安心して学ぶことのできる場」を提供し続けて参ります。今後とも皆さまのご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

## 台風22号災害復興支援活動

2021年12月16日に猛烈な台風22号がネグロス島を襲いました。被害は私たちの想像をはるかに超えるものでした。家屋の倒壊、電柱や木々の倒壊、そしてインフラが破壊されました。私たちが支援をしていた山間部でも大きな被害が出ています。

このような事態の中、私たちはネグロス島災害復興基金を立ち上げ、皆さまから合計1,593,500円の災害支援金をお預かりしました。これにより、2つの村約200世帯へ飲み水、米、缶詰、生理用品などを被災した住民へ手渡すことができました。2月13日には年明けのコロナ感染拡大の影響により延期となっていた2回目の災害支援を行うことができました。

最新の支援状況は以下の通りです。

1.被害が特に大きい地域への災害派遣、緊急支援物資（約200世帯）→約300世帯完了
2.現地のイマジナス・DETi（学校）スタッフ家族への家屋修繕費用、必要物資（約20世帯）
→14世帯へ3000～5000ペソ支給完了　＊5000ペソは一月分の世帯収入に相当
3.奨学金対象生徒の家族への支援（10世帯）
→安否確認完了／10世帯へ各1000ペソの現金と500ペソ分の生活用品の一時支給を検討
4.特に被害が大きかった世帯への住居関係支援
→情報収集中
5.村の小学校の復旧
→Kabayabsan村の学校校舎の復旧支援等を検討中
6.現地拠点となるイマジナス・DETi（学校）の建物修復
→倒木の除去や清掃を実施／大型家屋の修復は未着手

2021年12月（クリスマス）には、認定子ども園さざなみの森（保護者会）から頂いた、子どもたちのリユース服がネグロス島に届きました。これは、台風による災害を受けた村へ支援物資とともに配られ、子どもたちへのクリスマスプレゼントになりました。
このような状況の中、私たちは皆様のご協力をいただきながら、今後は奨学生の家族への支援や特に被害の大きい地域の災害派遣、緊急支援物資などの活動を現地のニーズに合わせて実施して参ります。

## 4.インド／女子児童のためのシェルター「JAGRITI」

イマジナスは、ストリートの女子児童を保護するためのシェルターを2015年に開設しました。シェルターでは、子どもたちが安全で健全な生活を送れるよう食事や教育を提供しています。今年で7年目に入ったJAGRITIは、イマジナスと提携団体CONC’RNが共同で運営しているシェルター・教育施設の名前です。名前に込められた意味は「目覚め」。支援の対象としているのは、対象地域の西ベンガル州シリグリにある鉄道駅周辺で生活するストリートチルドレンたちです。
彼女らの多くは、駅周辺で家族と共に過ごしており、毎日物乞いをし、料理の手伝をし、時には周りの大人から厄介者扱いされながら生活をしています。季節移動している場合が多く学校には通っていません。2021年度は、年間約300名もの女子児童が駅周辺で確認され、そのうち40名程度がJAGRITIで何らかの支援を受けています。また、そのうち13名が継続的にJAGRITIに通っており、食事や教育、カウンセリングを受けています。
2020年からのコロナウィルスの影響は子どもたちにも出ており、駅周辺で確認される子どもの数は増えました。移動することが困難になったため、一箇所で生計を立てるケースが増えましたが、駅の利用者は減ったため、物乞いなどで得られる収入は減っていると思われます。そのため、子どもたちが別の形での児童労働をさせられている可能性があります。

今後、JAGRITIへ通う子どもたちの数が増えたことへの受け入れ体制の強化、そして、多様化する子どもたちの問題へ対処できる人員の投入が課題となります。現在の予算には限りがあり、子どもたちへ満足のいく支援が出来ていないことから、皆さまの一層のご支援をお願い申し上げます。



## 5. ネグロス島仕事づくり＆寄宿舎建設

### 100個のアバカバッグを生産！

ネグロス島の山間部の村人は主にサトウキビ農園で日雇い労働をしています。しかし生活のための収入は十分ではなく、緊急時のために貯めておくほどの余力がありません。さらには地理的・経済的な理由などが重なり、十分な教育を受けることができず、子どもたちが将来、同じように日雇い労働に従事するという負のサイクルにつながっています。イマジナスでは、これら農家の所得向上を目指し、新しい産品の開発、製作を村の人々と共に行っています。2021年度は、現地の素材である繊維質の植物（アバカ）を用いて、デザインバッグの製作を行いました。デザインは、学生インターンが行い、現地スタッフと何度も試作品を作り、ようやく完成へとこぎつけました。その後、ネグロス電工様から100個のオーダーをいただき、生産し納品することが出来ました。これまでは、製作したものを売る販路開拓に課題があったため、大きな前進といえます。

### 村の子どもたちの夢「寄宿舎」建設計画が出来ました！

現在奨学金を提供している子どもたちの村は山間地域にあり、市街地の高校へ通うことが困難です。そのため、どの学校へも通える寄宿舎を市街地に作ることが、子どもを含めた私たちの夢でした。そのような中、ネグロス電工様と無有建築工房（MOO）様のお力により、実現化への計画が出来上がりました。提携団体のDarwin English Tutorial international（DETi）の敷地内に寄宿舎やキッチンホール、学びの場を含めた3棟の大きな施設となります。2022年着工予定で、現在、材料や工法など現地との調整が行われております。

## 6. 学生インターン（国際協力）

イマジナスでは毎年、全国の学生インターンを受け入れ、国際協力のフィールドで実践経験を積む場を提供しています。昨年度から、日本の企業がSDGsの取り組みとして、展示会などで配付するカタログを収納するバッグを、ネグロス島の素材を用いて製作する、という取り組みをしています。現在はコロナ禍で外国人がフィリピンへ入国することができません。そこで、オンラインソフトを駆使してプロブレムツリーを作成したり、ブレインストーミングを行ったりして、ユーザーはどんな人なのか、求められているものは何なのかなど分析を進めていきました。言葉の壁だけでなく、自分の考えを画面の向こう側にいる相手に伝える難しさにぶち当たりました。それでもめげずに想像力を膨らませて、オンラインでディスカッションを繰り返し、現地スタッフに奔走してもらい、遂に村の人たちに試作品作製の依頼をする段階までたどり着きました！（大学生談）